

て、見方・考え方が漸次育成されるようにする。

四 集合や論理的な見方・考え方に ついても必要に応じて適切に取り扱う ようにする。

なお、一学年の図形の指導に際し ては、直観的な取り扱いを中心とし て、操作的な活動を取り入れるなど 小学校との関連を図るよう留意す る。

三 基礎的な知識の習得や技能の習熟 と「数学的な考え方」の育成との調 和を図る

(一) 基礎的な知識の習得や技能の習熟 に当たっては、過程を大切にしながら、繰り返し指導し、定着を図るよ うにする。

特に、計算、作図、実例、分類整 理などの活動を重視する。

(二) 既存の経験や知識、技能を、新し く学習しようとするものに適用、発 展させることができるよう、関連的 な取り扱いに努める。

(三) 数学的な推論では、特に演えきの な推論の方法の理解とその活用に着 点において指導し、論理的に考える 態度を身につけさせるようにする。

四 学習指導の改善を図り、学習意欲 を高めるとともに、学習を一層効果 的にする

(一) 個人思考や集団思考を配慮しなが ら、生徒が自力で問題を解決する喜 びを味わうことができるような学習 指導を工夫する。

(二) 生徒の学力の段階に応じた学習目 標を設定し、生徒自身が学習の成果 を知ることにより、積極的、意欲的 に取り組むことができるような学習 指導法を工夫する。

(三) 教育機器の活用、資料の提示等を 工夫し、更に、個に即した適切な指 導助言をすることにより、数学に対 する興味、関心を高める。

(四) 教材研究を深めるとともに、教科 書を効果的に活用し、指導の効果を あげる。

## 高等学校

昨年度から実施された移行措置の趣 旨をふまえ、小・中・高を通じた一貫 した算数・数学教育の実現を目指し、 基礎的な知識、技能の習得を図り、数 学的な考え方や処理のしかたを育成す るために、次の事項に留意する必要が ある。

一 生徒の実態に即した指導体系と指 導計画を作り上げる

(一) 生徒の学習の過程を重視し、学習 したことが他の場面に転移できるよ う、抽象化や一般化の能力の育成を

考慮した指導計画を作成する。  
(二) 各学年にわたって繰り返し発展的 に指導を積み重ね、学習効果をあげ ていく教材と、まとめて集約的に指 導して学習効果をあげる教材の、指 導上の区分を明らかにして、指導体 系の効果的構成を図るようにする。

二 実態に即した科目、教科書等の選 択に配慮する

(一) 生徒の能力・適性・進路に見合っ た科目を履修させ、ゆとりのある効 果的な学習をさせるようにする。

(二) 適切な教科書を選択し、指導内容 の重点化、教材の精選を図るなど、 その使用法を十分研究する。

三 学習指導の改善を図り、学習意欲 を高めるとともに、学習が一層効果 的に行われるようにする

(一) 生徒個々の学力に応じて、目標達 成の度合いが段階ごとに把握できる よう、きめこまかな評価の方法を考 える。

(二) 発見的、創造的に学ぶ態度を育て るとともに、自ら学ぶ方法を身につ けさせる。

(三) 数学に適した教育機器を利用して 数学に対する興味・関心を高め、作 業や視覚を通じた学習法を取り入れ ることにより指導の効果をあげる。

(四) テストや課題の内容は、授業との

関連を密にし、その与え方を工夫す るなど、指導の効果を一層高めるよ うにする。

四 基礎学力の定着を図り「数学的な 考え方」の育成に努める

(一) 基礎的な知識の理解と技能の習熟 を図って、これらが問題解決に生か されるようにする。

(二) 問題解決に際しては、多様な手法 を用いてこれに当たり、それぞれの 方法の良さ、特徴を認識させ、学習 内容の深化を図る。

(三) 次数を下げたり、文字の数を減ら したり、観点を変えて単純化したり するなど、より基本的な事項に還元 して、問題を解決する仕方を理解さ せる。

(四) 次元に関係なく成り立つ性質を発 見させたり、より高い立場から見直 すことにより、いくつかの領域の事 項を関連づけ、体系化し、まとめて いく手法を理解させることにより、 数学の方法の良さを知らせる。

(五) 論理的思考に関し、演えきととも に帰納・類推の方法も理解させて、 特殊から一般へ、一般から特殊への 数学的な手法を身につけさせる。

(六) 数学史や学問における背景などに 触れ、教材に対する関心を深める。

五、指導の内容・方法について中学校 数学との関連を密接にする